



ファイルサーバのスリム化を支援する 活文 File Server Optimizer

※「MEANS」は「活文 File Server Optimizer」に名称が変わりました。本事例内容は公開当時のものです。

導入事例

学校法人 モード学園 様

「MEANS」でファイル廃棄ルール準拠の運用を実現

ひとり一人の「好き」を育て、「即戦力」につなげる教育を実践し、ファッション・デザイン・美容の「モード学園」、IT・デジタルコンテンツの「HAL」、医療・福祉の「医校・医専」、3つの専門学校において優秀な人材を輩出し続ける 学校法人モード学園。今回の「MEANSファイルサーバスリム化ソリューション」は、“デジタル情報の確実かつ適切な廃棄”によるファイルサーバの運用効率化を最大の目的に導入されました。



学校法人モード学園

開校	1966 (昭和41) 年4月
教職員数	1,500名 (2012年6月21日時点) ※全グループ校合計
在校生数	14,800名 (2012年6月21日時点) ※全グループ校合計
URL	http://www.mode.ac.jp/org/

グループ校

学校法人・専門学校	東京モード学園	学校法人・専門学校	HAL大阪
学校法人・専門学校	大阪モード学園	学校法人・専門学校	HAL名古屋
学校法人・専門学校	名古屋モード学園	学校法人・専門学校	首都医校
CREAPOLE (モード学園パリ校)		学校法人・専門学校	大阪医専
学校法人・専門学校	HAL東京	学校法人・専門学校	名古屋医専

従来からの課題

個々のデジタルに関する理解・スキルに差があり、データ管理が統制し切れていない状態

学校法人モード学園の各教職員は、業務で作成・使用するファイルを、個人使用のものはPCのハードディスクに、共有ファイルはファイルサーバ内に保存していました。その後、ブレードPC型シンクライアントへの移行に伴い、ネットワーク上のファイルサーバに個人用・共有用のフォルダを作成し、学校・部署・地域・用途ごとに分類して管理することに。しかし、各種ファイルの取り扱いについては、基本的なルールはあったものの、デジタルに関する理解やスキルに教職員間で差があるため、事実上、教職員ごとに微妙に解釈が異なり統制し切れていない状態でした。

「デジタル機器を日常的に使いこなすHALの教職員などは、ファイル名ひとつ見ても、いつ誰が作成したものかわかるように付けていましたが、一般的な教職員は、自分にしかわからないネーミングをします。そういったことの積み重ねが、結果的に不要なファイル、削除すべきファイルを増やしてしまったのでしょう。システム室でも、先々のことを考えると何らかの手を打たなければならない、ファイルをきちんと整理する仕組みが必要だ、という認識を持っていました。ちょうどその頃、法人内で「各種デジタル情報の保護・廃棄の仕組み

を見直し、改善する」という動きがありまして、検討を始めたのです(寺田氏)」



学校法人モード学園
理事/法人本部学務室 室長
HAL大阪 統轄責任者 寺田 延生 氏

製品選定の流れ

ルール作りから着手し、目的に合致する「MEANS」を選定

まずプロジェクトは、デジタル情報の取り扱い状況の見直しと、ルール作りからスタートしました。

学校法人モード学園には、書類の取り扱いに関するルールは以前から整備され、情報ごとに保存期間が設定されていました。しかし、デジタル情報については詳細な保存期限ルールがなく、月日が経つにつれ利用されなくなった大半のデータが残ったままの状態でした。さらには、内容を把握しないまま保管し続けることが、大きな問題になることも懸念されました。そこで、どれだけの保存期間を設けるか、どうやって削除するか、“デジタル情報の確実かつ適切な廃棄”が課題となりました。

「最初は、1年で廃棄しようという話が出ました。いや1年では無理だ、3年は必要だ、業務によってはできる、できない…そんな議論を尽くして、各ファイルの使用状況を調査し、業務パターンなどを分析した結果、保存期間は、基本的に1年、これを過ぎたものは廃棄することに。教育機関として、また学校法人として長期に渡り保管する必要のある業務システムのデータは、対象外としました(寺田氏)」



同時に、運用ルールとして、ファイル名に“保管有効期限 (yyymm、または期限を示すキーワード)”を付けることを決定。この運用に合うツールの調査を開始しました。

「何製品かリストアップして調べましたが、目的に合致しそうな製品は、ほとんどありませんでした(赤田氏)」

学校法人モード学園
法人本部 システム室主任 赤田 和隆 氏

「どれもピタッとこない、かゆいところに手が届かない…そんな感じでした。同じ頃、取り引きのあるIT企業数社にも声をかけました。その中の1社が、約15年のお付き合いになる日立システムズです。担当営業の方から、「これかありません」と提案していただいたのがMEANSでした(寺田氏)」

最終候補に残ったのは、MEANSを含む2製品。

「どちらも基本的な機能を備えていましたが、私たちの条件を100%満たすものではなく、それを相談したところ、積極的に解決策を示してくれたのが、MEANSの開発元である日立ソリューションズと日立システムズのチームでした。これが、MEANSを選択した大きな理由の一つです(赤田氏)」

「技術面では、部分的にカスタマイズできる点も高評価でした(寺田氏)」

その後、評価機を用意し、1ヵ月間のテストを実施。クローリングの所要時間など、いくつかの不安要素を払拭した上で、導入を最終決定しました。

導入時の取り組み

ファイル削除フラグON機能をカスタマイズで追加

日立ソリューションズ+日立システムズによるチームは、導入プロセスに入り、日立ソリューションズ主導へと移行。設計・構築と合わせ、カスタマイズに取り組んでいきました。

「設計・構築時の願いは、ファイル名に付けた保管有効期限をチェックして削除対象のファイルを探してほしい、有効期限が付いていないファイルは、作成年月日から有効期限を自動的に算出し、削除対象にしてほしいということでした。カスタマイズとしては“不要ファイルの削除フラグON機能”。MEANSの基本機能は、“削除しても良いはず”という候補がリストアップされ、その中から削除したいファイルにチェックを付ける仕組みでした。逆に、私たちは“まもなく削除します”という告知としてリストアップされ、そこから削除したくないファイルのみチェックを外す仕組みにしたかった。つまり、放置すると残るのではなく、どんどん削除されるシステムです(赤田氏)」

これと並行し、全教職員の既存ファイルへの有効期限付与も進行。

「ファイル名を正確に付け直すのは手間ですから、不要なファイルについては、各教職員が自らどんどん削除していきました。私が管轄する部署を例にあげると、この段階で1/3くらいのファイルが消えました。稼動前でしたが、これもMEANS効果ですね。(寺田氏)」

導入後の効果

導入を機に、全教職員の意識が変化

MEANS稼動開始時のデータ量は、全グループ校を合わせて約1.7TB。

「ファイルの削除は1~2ヵ月ごとに実施していく予定です。現時点では1回実施して、約50万ファイル、180GBを削除しました(赤田氏)」

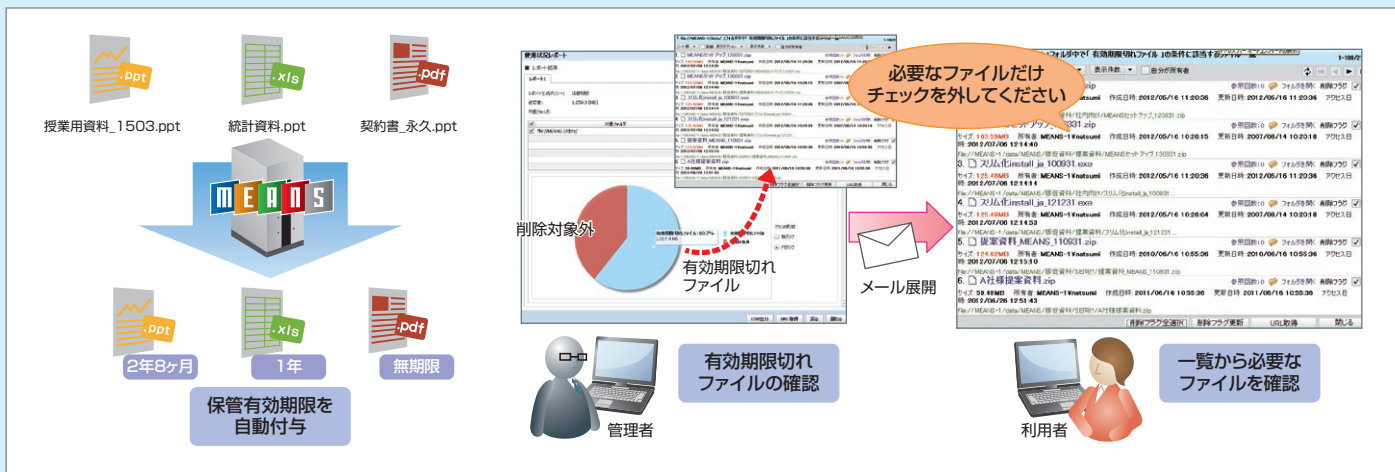
「最大の目的はディスク容量の削減ではなく、“デジタル情報の確実かつ適切な廃棄”ですから、具体的な効果はまだ先。保管期限の基本が1年なので、成果は2年目以降でしょう。1年後であれば、成果についてもっと詳しくお話しできると思います(笑)。ただ、すでに全教職員の意識は、明らかに変わってきました。ファイルを作成する時は、有効期限をつけなければなりません。だからこそ、重要性や必要性を考えるようになりました。(寺田氏)」

今後の展望

表示やチェックの機能追加、運用の効率化を推進

今後は、運用を続けながら、さらなる改良を計画。

「日立ソリューションズ+日立システムズのチームには、当然のことながら今後も期待しています。今回のMEANS導入を通じ、世の中には製品を売るだけのベンダーさんも多いですが、やはり日立さんは、様々な面で信頼に値すると実感しましたね(寺田氏)」



※本事例の内容は2015年1月以前の情報です。※MEANSは株式会社日立ソリューションズの登録商標です。※その他、本文中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記していません。※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。※本文中の情報は、事例作成時点のものです。



本事例のwebページはこちら

www.hitachi-solutions.co.jp/katsubun/case18/

株式会社 日立ソリューションズ

www.hitachi-solutions.co.jp



本カタログ掲載商品・サービスの詳細情報

www.hitachi-solutions.co.jp/katsubun/sp/fso/

J12K-26-02

2015.01